

第39回

改善で切り拓く未来

全日本物流改善 事例大会 2025

開催のご案内

会期 | 2025年5月13日(火) 10:00~17:00
2025年5月14日(水) 10:00~17:00

会場 | 御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター
sola city Hall

- 過去最多42の改善事例が発表されます!
 - 発表者との名刺交換会を実施、情報交流が図れます!
 - 発表事例は後日、動画配信いたします。大会への参加者は無料で視聴可能です。
- ※ 視聴できるのは参加日の事例となります。 ※ オンラインライブ配信は行いません。

後援

公益社団法人 全日本トラック協会 東京商工会議所 一般社団法人 日本倉庫協会 一般社団法人 日本パレット協会
一般社団法人 日本物流システム機器協会 一般社団法人 日本物流団体連合会 (順不同)

主催

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 一般社団法人 日本物流資格士会

全国で取り組まれた物流改善事例が発表されます

グローバル化の進展、環境負荷軽減の推進、コンプライアンスの確保、人材・労働環境変化への対応など、企業経営を取り巻く重要な課題に対応していくために、企業競争力の向上と企業価値向上に大きく貢献するロジスティクスを構築し、部門間はもとより企業や業種・業界の枠を超えた連携が強く求められています。

ロジスティクスを効率的かつ効果的に機能させるのは、実質的な運営を司る物流現場です。企業経営にスピード、効率化が強く求められ、さらに多様化、複雑化している経営や市場等の環境変化に柔軟に対応できる物流の「現場力」がこれまで以上に必要とされており、物流現場改善活動の推進は「現場力」を強化する重要な役割を担っております。

このような状況のもと、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会と一般社団法人日本物流資格士会では、物流における「現場力」をさらに高めるべく、優れた物流改善事例を相互に発表し、課題解決の手がかりやノウハウを共有していただくとともに、物流の実務者同士が集う情報交流の場となる「全日本物流改善事例大会2025」を開催いたします。

今大会では多数の応募事例のなかから選考された、過去最多の42の優秀事例が2日間にわたって発表されます。また各セッション終了後には、発表者との名刺交換会を実施し、参加者相互の交流を図るとともに、大会終了後には発表の模様を収録した動画を公開、大会への参加者は無料で期間内何度でも視聴可能です。

物流改善に意欲的な取り組みを行っている企業の発表を通じて、参加各社の物流改善活動がさらに活性化し、エッセンシャルワークとしての物流が持続的・安定的に確保されることを期待しております。

この機会に是非関係各位の積極的なご参加をお待ちしております。

全日本物流改善事例大会2025 開催要領

会期

1日目: 2025年5月13日(火) 10:00~17:00

A会場 セッション a・c・e・g

B会場 セッション b・d・f・h

2日目: 2025年5月14日(水) 10:00~17:00

A会場 セッション i・k・m・o

B会場 セッション j・l・n・p

会場

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター sola city Hall
東京都千代田区神田駿河台4-6

プログラム

物流の実務者による改善事例について、物流センター等での現場改善を対象とした「I.物流業務部門」と運営・管理部門での改善を対象とした「II.物流管理部門」の部門別に募集し、応募事例の中から選考された「優秀事例」を本大会にて発表いただきます。なお、優秀事例発表者にはクリスタルを贈呈いたします。

主催

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会
一般社団法人 日本物流資格士会

全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員名簿

2024年10月現在 (順不同・敬称略)

委員長	成蹊大学	名誉教授	渡邊 一衛
副委員長	東京海洋大学	学術研究院 流通情報工学部門 教授	黒川 久幸
委員	伊藤忠食品(株)	ロジスティクス本部 本部長代行	神山 浩二
委員	(株)ANA Cargo	マーケティング業務部 担当部長	中井 尚
委員	SBS東芝ロジスティクス(株)	物流改革推進部 次世代ロジ技術推進担当 参与	脇田 哲也
委員	SBSロジコム(株)	営業企画部長(日本物流資格士会)	三身 直人
委員	(株)オカムラ	ロジスティクス統括部 物流企画部 課長	磯崎 隆之
委員	(株)カスミ	SCM担当マネジャー	齋藤 雅之
委員	サッポログループ物流(株)	経営戦略部 部長付	浦田 浩明
委員	山九(株)	物流事業本部 物流企画部長	石渡 教雄
委員	大成建設(株)	エンジニアリング本部 エンジニアリング第1部 部長	津田 亮一
委員	日本通運(株)	ロジスティクス事業推進部 専任部長	吉村 治之
委員	(公益)日本ロジスティクスシステム協会	JILSアドバイザー	飯田 正幸
委員	福島大学	理工学群 共生システム理工学類 准教授	寛 宗徳
委員	本田技研工業(株)	サプライチェーン購買本部 生販部品企画部 調達・供給プロセス課 主事(生産管理部会サブヘッド)	新井 伸明
委員	三菱地所(株)	物流施設事業部 リーシング・PMユニット 専任部長(日本物流資格士会)	堀川 亮一
委員	三菱倉庫(株)	ロジスティクス業務部 品質マネジメントチーム マネジャー	藤本 里子
委員	三八五流通(株)	執行役員 営業本部 引越事業部 法人担当部長(日本物流資格士会)	黒坂 容平
委員	ロジスティクス エンジニア オフィス 茅ヶ崎	代表(日本物流資格士会)	藤巻 敬

物流改善賞

全日本物流改善事例大会 実行委員会では、大会でご発表いただいた優秀事例を審査のうえ「最優秀物流改善賞」および「優秀物流改善賞」を決定し、2025年6月開催の当協会定時総会の席上で表彰式を行います。受賞企業には正賞(表彰状)と副賞(賞金)を授与いたします。また、受賞企業は、当協会のホームページ、機関誌「ロジスティクスシステム」で発表いたします。

※2022年大会より、「物流合理化賞」は「最優秀物流改善賞」に、「物流合理化努力賞」は「優秀物流改善賞」に変更しました。

「全日本物流改善事例大会2025はこんな大会です!」

「全日本物流改善事例大会2025」では、ひとつの作業所(現場)で完結する小集団による取り組みを対象とした「I.物流業務部門」と、複数の物流業務および工程を統合した範囲を対象とした「II.物流管理部門」における改善事例を募集、その中から選ばれた優秀事例を部門別に発表いただきます。

■ 過去最多42の改善事例が発表されます!

会場を2つに分け、2日間にわたりバラレル形式にて開催いたします。貴社の参考となる事例がきっとあるはずです。

■ 発表者との名刺交換会を実施、情報交流が図れます!

各セッション終了後には、発表者との名刺交換会を実施、またコーヒープレイクの時間を設けるなど、参加者相互の交流が図れます。

■ 発表事例は後日、動画配信いたします。大会への参加者は無料で視聴可能です。

大会終了後、発表の様様を収録した動画を公開いたします。大会への参加者は無料で、期間内(5月~12月を予定)何度でも視聴可能です。

※ 視聴できるのは参加日の事例となります。 ※ オンラインライブ配信は行いません。

発表部門について

	I. 物流業務部門(物流センター等での現場改善)	II. 物流管理部門(運営・管理部門での改善)
対象範囲	ひとつの作業所(現場)で完結する小集団が対象	複数の物流業務および工程を統合した範囲が対象
対象業務	輸送、入荷、検品、保管、仕分、ピッキング、包装、荷役、積付、出荷、配送	受・発注管理、輸・配送管理、在庫管理、作業管理、包装管理
関係部門	物流センター、生産工場、建築現場、病院、商業・港湾施設等	物流部門等
役割	作業生産性向上、業務コスト削減、物流品質向上、現品管理、精度向上、安全性向上、環境負荷軽減等	コスト削減、精度向上、物流リードタイム短縮、環境対応等

各部門における事例

I. 物流業務部門(物流センター等での現場改善)	II. 物流管理部門(運営・管理部門での改善)
<ul style="list-style-type: none"> ● 庫内作業の改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● ピッキングリストや棚表示、ピッキング作業の改善 ● 人員配置の改善によるピーク時対応や負荷の標準化 ● 荷役機械、保管設備、パレット、容器、情報端末等の改善 ● 出荷頻度や取扱製品に応じた保管、配置方法の改善 ● 作業環境、作業方法の改善 ● 包装作業の改善 ● 輸配送の改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● 復路輸送の空荷防止などによる収益の向上 ● 誤出荷、誤納の減少 ● トラックの積載率、回転率、運行効率の向上 ● トラックの滞留・積載時間の短縮 ● 輸出・輸入業務の改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● 港湾、空港など輸出入物流拠点における業務改善 ● コンテナ輸送における物流の効率化 ● 通関業務における事務作業の改善 ● テクノロジーを活用した改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● 省人化機器(ロボティクス)・IoT・AIの活用による効率化・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 物流システムの改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● 物流拠点の統合・再配置による改善 ● 事前出荷情報の取得と活用による改善 ● 国内・海外物流拠点間輸配送の改善 ● 港湾地区における渋滞への対応 ● IT・IoT活用による効率化、業務改善 ● 物流に配慮した包装設計 ● パレット、包装資材の環境対策 ● 管理系(取引条件等)の改善例 <ul style="list-style-type: none"> ● 納期回答の迅速化 ● 取引条件の変更による改善 ● 物流変動に合わせた作業体制の構築 ● 在庫の適正化 ● 現場事務へのRPAの活用
<p>物流全般</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境対応、環境負荷の低減を目指した活動 ● 災害対応について(震災・水害等) ● 労働力不足への対応 ● CSの向上(クレームの減少) ● 教育訓練によるモラル・モチベーションの向上 ● 労働環境改善、働き方改革 ● 作業安全性への取り組み ● 企業連携・サプライチェーンへの取り組み ● SDGsに向けた取り組み 	

全日本物流改善事例大会2025プログラム

会場

御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター sola city Hall

(敬称略)

		A会場		B会場	
9:30	開場				
10:00 ↓ 10:10	開会 あいさつ	物流現場活性化について	全日本物流改善事例大会 実行委員会 委員長 成蹊大学 名誉教授	渡邊 一衛	
	セッション a	コーディネータ (株)オカムラ 三菱地所(株)	磯崎 隆之 堀川 亮一	セッション b	コーディネータ 山九(株) 伊藤忠食品(株)
	発表 1	定期自主検査・保安検査内製化への道		発表 12	沖縄一安心・安全な倉庫を目指して ～現場力向上プロジェクト～
10:15 ↓ 10:35		鴻池運輸(株) 関西支店 陸運泉北営業所 グループリーダー	古谷 弘和	琉球物流(株) 第一営業部 課長 浦添 睦子 第一営業部 班長 赤嶺 一 営業戦略室 主任 上間 一輝	
		【改善事例における主な取り扱い製品】 高圧ガスローリー車 高圧ガス保安法に基づく定期自主検査対象車両20台、保安検査対象車両17台について、配送の隙間時間を利用し各検査の内製化を実施。法定検査費用の削減と、容器管理の強化により、設備トラブルによる休車頻度の削減と修繕費の削減を図る。		【改善事例における主な取り扱い製品】 食品・飲料 自倉庫における安全基準を16項目に定めて、物流品質向上へと繋げる現場力向上プロジェクトが始動。品質向上に向けた安全座学と提携企業の倉庫視察を実施。庫内ルールを標準化することで誰が見ても一目で分かる現場づくりを実施した。また、マテハン機器導入により作業工程のムダを省いた事で作業生産性の向上に成功した。	
	発表 2	物流2024年問題への取り込み ～積載率向上による運行便数削減～		発表 13	92(日用品)エリア動線短縮による 生産性向上
10:35 ↓ 10:55		三桜工業(株) 生産統括本部 生産企画部	関 篤志 第147期物流技術管理士/第14期物流現場改善士	山村ロジスティクス(株) 神奈川中央営業所	平井 唯
		【改善事例における主な取り扱い製品】 自動車部品 関東から九州までの鉄チューブとパレット部品の混載輸送において、積載効率を改善するために専用コンテナを作成した。これにより、積載効率が8トンから11トンに向上し、月間運行便数を16便から12便に削減させた。モジュール(コンテナ)化した事により荷役時間短縮につながった。		【改善事例における主な取り扱い製品】 小売りチェーンストア向けの日用品 小売りチェーンストアへの日用品とドライグロサリーを供給する物流センターを運営している当社は、HHT集品作業生産性が低い日用品の「92エリア」に焦点を当てて改善に着手。ヒートマップ作成、ABC分析、個人別生産性や歩行数のサンプリングで現状分析し、レイアウトとロケーション、棚割り見直しを行い動線短縮に成功。結果、目標生産性を達成することができた。	
	発表 3	少しでもムダと思えば改善してみて 効率・効果に繋げる		発表 14	運送会社の滞在時間短縮
10:55 ↓ 11:15		SBS東芝ロジスティクス(株) 三重ロジセンター SBSロジスター(株)	渡辺 とき	コーセル(株) 生産一部 物流課 グループリーダー 生産一部 物流課	石川 亜希子 澤井 幸子
		【改善事例における主な取り扱い製品】 モータ、変圧器などの中重量品 メンバーから「既存のルール通りに仕事をすると効率が悪い」との声があり現状を把握すると、屋外保管品の二重包装、クレーンで製品を吊り上げパレットに積み付け固定させる作業、用紙のコピー等、多くの課題がある事が判明した。ムダな作業時間・費用の削減を目標にそれぞれの課題を改善した結果、施策毎に目標を達成した。		【改善事例における主な取り扱い製品】 電子機器(スイッチング電源、ノイズフィルタ) 物流課には、日あたり700注番、段ボールにすると1000箱以上の部材が届く。ドライバーは現品票や品目名・コードを探し出し、荷合わせをしながらバラで手降しをし、指示された台車に載せ指定場所まで移動と1時間以上も滞在していたが、2度の改善を行った結果、滞在時間を25分まで短縮することができた。	
11:20 ↓ 11:25	コーディネータコメント				
11:25 ↓ 12:35	セッション a・b 発表者との名刺交換会/昼食休憩				

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

A会場		B会場	
	<p>セッション C</p> <p>コーディネータ (株)ANA Cargo (株)カスミ</p> <p>中井 尚 齋藤 雅之</p>	<p>セッション d</p> <p>コーディネータ SBS東芝ロジスティクス(株) 三菱倉庫(株) ロジスティクス エンジニア オフィス茅ヶ崎</p> <p>脇田 哲也 藤本 里子 藤巻 敬</p>	
	<p>発表 4</p> <p>B2C出荷強化に向けた自動搬送ロボット(AGV)導入及びBIツール導入による運用改善</p>	<p>発表 15</p> <p>レイアウト変更による作業効率向上の取り組み</p>	
12:35 ↓ 12:55	<p>KDDI(株) 購買本部 物流統括部 エキスパート</p> <p>石田 博美</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】 携帯電話及び周辺機器</p> <p>コロナ禍を契機にB2Cの需要が急増し、更なる需要増が見込まれることから従来の手作業による出荷体制では早晚キャパ不足に陥ることが懸念された。出荷能力の強化を見据え、自動搬送ロボット(AGV)を導入したが、想定どおりの効果を得ることが出来ずBIツール等も駆使し課題解決を図った。</p>	<p>アサヒロジ(株) 東京支社 東京西支店</p> <p>宮崎 大樹</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】 飲料製品</p> <p>「作業者の長時間労働」と「車両の長時間待機」の解消に取り組んだ。作業効率化のため庫内レイアウトを改善し、搬送量や距離を削減。さらに、入出荷作業能力を向上させるため作業場所の変更や多能化を実施。その結果、前年比で労働時間を51%、車両待機時間を15%削減し、人件費約2,033万円を削減した。</p>	
	<p>発表 5</p> <p>画像・計量DPC(デジタルピッキング)開発・導入による作業効率・品質向上</p>	<p>発表 16</p> <p>入荷工程のレイアウト変更による付帯業務作業者の負荷軽減と生産性向上</p>	
12:55 ↓ 13:15	<p>(株)ミスミ 物流サービスグループ 東日本流通センター センター長 第20期ロジスティクス経営士</p> <p>畑農 恒介</p> <p>物流サービスグループ 東日本流通センター ユニットリーダー 物流サービスグループ 東日本流通センター ユニットリーダー</p> <p>上原 英明 宇敷 祥太</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】 装置・整備向け部品及び金型用部品、工具・消耗品など</p> <p>40万点超の在庫品ラインナップ、250名超のピッキング作業員が従事する中で如何にヒトとモノをより良く繋ぎ、センター使命である【確実短納期の遵守】を遂行していくか。デジタルを活用したセンターオペレーションの抜本的見直しにより過去最大成果(40名超の削減)の創出に至るまでの歩みをご紹介します。</p>	<p>(株)ワールドスタッフィング ロジ事業企画部 ロジ運営戦略課 課長</p> <p>眞鍋 尚</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】</p> <p>入荷での検品・受領をサポート業務の中に、作業場へオリコンを搬送・補充するという付帯業務がある。頻りに搬送や補充が繰り返されるため非効率であり体への負担が大きいなど多くの意見が挙がったことから改善に取り組んだ。過去と現在の物量変化による作業場必要数の見直しや体に負担の掛からない補充方法の見直しを行った。</p>	
	<p>発表 6</p> <p>ECRS(イクルス)の4原則による作業生産性の改善</p>	<p>発表 17</p> <p>オンサイト業務の効率改善によるCS業務体制の再構築</p>	
13:15 ↓ 13:35	<p>サン インテルネット(株) (サッポログループ物流(株)・関東支社) 営業本部第一営業部 愛川センター 副センター長</p> <p>長谷川 健</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】 飲料・加食製品</p> <p>3PL企業として“ECRSの4原則”を導入し、不要な工程の排除、業務の結合、作業順序の最適化、手順の簡素化を実施。これらの改善により、業務全体の生産性が26%向上し、生産性向上・品質向上を同時に達成することができた。</p>	<p>ロジスティクスオペレーションサービス(株) 中部物流業務部</p> <p>脇田 学</p> <p>【改善事例における主な取り扱い製品】 PC本体・その他部類</p> <p>対象業務量が前年比で55%増加する中、各作業者の工数増加と新規ビジネスの取込みを新規採用者と既存人員の工数で負担なく取込みを進めたが、習熟度を要する作業内容があり、多能工が進まない状況であった。これを改善すべく作業工程を難易度分けして、難易度の高い作業を簡素化する改善を行い目標を達成する事ができた。</p>	
13:40 ↓ 13:45	<p>コーディネータコメント</p>		
13:45 ↓ 14:05	<p>セッションc・d 発表者との名刺交換会 / 休憩</p>		

全日本物流改善事例大会2025プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場		B会場	
	セッション e	コーディネータ SBSロジコム(株) 日本通運(株)	三身 直人 吉村 治之	セッション f	コーディネータ サッポログループ物流(株) (公益)日本ロジスティクスシステム協会 浦田 浩明 飯田 正幸
	発表 7	在庫配置変更による近距離輸送化		発表 18	デジタル化による物流現場事務の改善 ～用紙からデータで在宅勤務推進～
14:05 ～ 14:25		ヤマゼンロジスティクス(株) WG東日本統括部 ロジス関東	伊藤 奏	川崎陸送(株) 赤穂営業所	浦本 翔希
		【改善事例における主な取り扱い製品】 家庭用品、日用品、工具品、ホームセンター向け商材 遠距離配送による費用過多、車両確保難しい、CO ₂ 排出量過多、運行時間の長期化など、中距離配送の車両手配が困難になってきているなか、出荷拠点・在庫配置を見直し近距離輸送化をはかった。結果として、納品距離の短縮に成功し、CO ₂ 削減、運行時間の短縮による車両手配の問題に対策を講じることができた。		【改善事例における主な取り扱い製品】 工業用水処理薬品(ボイラ薬品・冷却水薬品・排水処理薬品)、水処理装置 荷主から出荷指示を紙からデータとして受けることで、伝票発行やデータ保存簡略化など生産性が向上。在宅勤務で荷主、関係先への対応が可能となり、週一回在宅など勤務形態の柔軟性が拡大。在宅は困難と言われる物流現場事務でも多様な働き方が可能となり、介護離職防止などワークライフバランスを向上させることができた。	
	発表 8	お客様とチームで二人三脚! 発注プロセス改善で在庫適正化と 配送コストを削減		発表 19	IoT×AIテクノロジーで ドライバーの体調と運行を見える化し、 ヒヤリハットを削減
14:25 ～ 14:45		(株)エヌ・ティ・ティ・ロジスコ ICT事業本部 在庫ソリューション担当 企画総務部 SCMコンサルティング室	吉本 紀子 天野 大進	ロジスティード(株) DXソリューション開発本部 サプライチェーンイノベーション部 課長	篠原 雄飛
		【改善事例における主な取り扱い製品】 介護福祉用品・用具・機械類 2019年から発注数算出業務を受託、自社サービスにより発注属人化を解消。しかし、欠品による遠方出荷やオーダー割れに伴う2拠点出荷から依然ムダな配送費が発生。発注数算出ロジックの見直し、在庫改善により欠品率を低減。2024年問題で配送費増とはなったが本改善により物流総コストを昨年度並みに抑えられた。		【改善事例における主な取り扱い製品】 安全運行管理ソリューション「SSCV-Safety」 運輸業界ではドライバーの心身の健康状態に起因する事故が増加しており、当社でも複数件発生していた。そのため、ドライバーの健康や疲労状態、危険運転をリアルタイムに把握できるソリューションを産官学の連携で研究開発し、全社に導入。重大事故につながるヒヤリハットを98%削減した。	
	発表 9	倉庫作業の安全性・生産性向上への 取り組み ～バース予約システムの導入と構内動線の改善～		発表 20	見える化でトラック待機時間削減に挑戦 ～運送会社には選ばれる荷主を目指して～
14:45 ～ 15:05		名港海運(株) 物流センター統括部 グループリーダー	伊藤 雄佑	花王(株) SCM部門ロジスティクスセンター 花王ロジスティクス(株) 坂出口ロジスティクスセンター	内藤 清 田中 和也
		【改善事例における主な取り扱い製品】 化学品・アルミインゴットほか輸出入貨物全般 ある物流センターにおいて、車両と人の動線交錯や、成り行き搬出入車両の受け入れによる車両待機時間があり、安全性の担保・生産性の向上が課題であった。そこで構内動線の改善とあわせてバース予約システムを導入し、課題解決を試みた。実効性を高めるため、ドライバー向けに動画マニュアルを展開、施策の周知を行った。		【改善事例における主な取り扱い製品】 日用品及び雑貨等 「ホワイト物流推進運動」に賛同し、待機時間削減のため大型物流センターにトラック予約システムを導入したが、改善活動が不十分であったため運送会社から指摘を受けることがあった。そこで、実態の把握、実績データをもとに課題の顕在化、課題に対する取り組みの実施を行い、荷待ち時間の削減を行った。	
15:10 ～ 15:15	コーディネータコメント				
15:15 ～ 15:45	コーヒーブレイク／セッションe・f 発表者との名刺交換会				

(敬称略)

A会場		B会場	
	セッション g コーディネータ 大成建設(株) 津田 亮一 三三五流通(株) 黒坂 容平	セッション h コーディネータ 本田技研工業(株) 新井 伸明 福島大学 箕 宗徳	
15:45 ~ 16:05	発表 10 倉庫のデッドスペースを収益化! ~滞留在庫を宝の山に変えるWeb販売スキーム構築~	発表 21 配送頻度見直しによる配送効率改善	
	北海道ロジサービス(株) 宅配物流部 部長 工藤 慎也	ヤマゼンロジスティクス(株) WG東日本統括部 ロジス関東 小泉 貴志	
	【改善事例における主な取り扱い製品】 食品・雑貨・マテハン類 返品・企画在庫保管スペースの滞留削減に成功。在庫分析を行い、新たな販売ルートとして「訳ありWeb販売」を構築。結果、企画在庫の平均物量を22.5%削減、スペースを大幅に縮小。供給と手数料収入という副次効果も実現。Web販売という新たな発想で在庫問題を解決し、廃棄物削減によるSDGsにも貢献。	【改善事例における主な取り扱い製品】 家庭用品、日用品、工具品、ホームセンター向け商材 働き方改革関連法によって時間外労働が制限される所謂「2024年問題」への対応が必要とされる中、より効率の良い配送を実現するために、配送頻度の見直し、配送日を固定化することで積載率の向上・運賃削減実施。	
16:05 ~ 16:25	発表 11 物流効率の改善: 取引先への納品における1梱包あたりの商品入数拡大に向けた取り組み	発表 22 建屋間及び屋内における一貫物流の無人化システムを実用化	
	資生堂ジャパン(株) SJロジスティクス部 望月 弘樹 河野 亮	ジャトコ(株) ユニット技術部 西尾 省吾	
	【改善事例における主な取り扱い製品】 化粧品 売上の低迷に伴い悪化した取引先への納品1梱包あたりの入数改善に向け、取引先の協力を得ながら改善活動を実施。まとめ発注を頂くなどの施策により、24年度は主要対象顧客企業で22年度比4割強、全体でも1割強の入数向上を達成。これにより配送効率が向上し、物流課題の解消にも寄与した。	【改善事例における主な取り扱い製品】 自動車変速機、電動パワトレイン及び部品の開発・製造・販売 ・離れた建屋間をつなぐ物流工程をトラックからAGVシステムに改善 ・全自動を目指しつなぎ改善による作業者レス(人が触れない物流自動化) ・人目が届かない屋外運搬に対応したリアルタイム監視と異常発報 ・トラック搬送廃止によるCO2削減(カーボンニュートラルへの貢献)	
16:30 ~ 16:35	コーディネータコメント		
16:35 ~ 16:45	セッションg・h 発表者との名刺交換会		
17:00	閉場		

全日本物流改善事例大会2025プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場		B会場		
9:30	開場					
10:00 ↓ 10:10	表彰式	2025年度物流現場改善優良認定 表彰式				
	セッション i	コーディネータ (株)オカムラ 三菱地所(株)	磯崎 隆之 堀川 亮一	セッション j	コーディネータ 山九(株) 伊藤忠食品(株)	平田 茂幸 神山 浩二
10:15 ↓ 10:35	発表 23	動画マニュアル作成による 品質向上・工数削減 ~協力し合えば困難なことでも実現出来る~		発表 33	KD発送における小物部品の生産性向上 ~安全で効率的な物流を目指して~	
		ロジスティード東日本(株) 野田営業所 係長 志村 亮		日立建機ロジテック(株) 部品サポート物流部 コンポーネントグループ 市川 かなえ 第15期物流現場改善士		
10:35 ↓ 10:55	発表 24	路線便集荷時間厳守に対応する 作業改善		発表 34	3ム(ムリ・ムダ・ムラ)取りによる生産性向上 ~ECRSと独自ツール活用で短期間に大幅改善~	
		ヤマゼンロジスティクス(株) WG東日本統括部 ロジス東京 所長 前川 健太郎		(株)柳川合同 物流センター 課長 経営企画室 執行役員 室長 松藤 逸雄 荒巻 陽佑		
10:55 ↓ 11:15	発表 25	歩行低減レイアウト導入による 空箱仕分け工程の少人化		発表 35	入庫待機時間削減に向けた 荷受け作業効率化の取組み	
		(株)アイシン・ロジテックサービス 物流部 物流企画グループ 物流部 物流企画グループ・GM 成田 充伸 木下 正英		(株)シーエックスカーゴ 小野営業所 業務課 副班長 小野営業所 業務課 課長 村上 静華 佐藤 正也		
11:20 ↓ 11:25	セッションi・j発表者との名刺交換会 / 昼食休憩					
11:25 ↓ 12:35	セッションi・j発表者との名刺交換会 / 昼食休憩					

(敬称略)

A会場		B会場	
	セッション k コーディネータ (株)ANA Cargo (株)カスミ 中井 尚 齋藤 雅之		セッション l コーディネータ SBS東芝ロジスティクス(株) 三菱倉庫(株) ロジスティクス エンジニア オフィス茅ヶ崎 脇田 哲也 藤本 里子 藤巻 敬
	発表 26 物流をもっと安全に もっと安心に ~コンテナ輸送中の荷崩れを防ぎ大切な商品を守ります~		発表 36 心拍を用いたピッカーの 身体的・精神的負荷の推定 ~倉庫作業でのワークエンゲージメント向上を目指して~
12:35 ↓ 12:55	山九(株) 神戸支店 営業グループ 井上 元喜		東京理科大学 創域理工学部経営システム工学科 教授 創域理工学部経営システム工学科 創域理工学部経営システム工学科 石垣 綾 並木 勇真 小野 百合香
	【改善事例における主な取り扱い製品】 TY-GARD2000(タイガード2000):海上コンテナ内の貨物固定資材 毎年何百万トンもの貨物がコンテナ内で適切に固定されないため荷崩れによるダメージを受け廃棄となっている。国際基準を遵守した適正な貨物固定を実施することで安全に商品を納品先へ届けることはもちろん、積載効率UPによる輸送コスト削減や現場作業標準化による持続可能な現場作りをサポートする。		【改善事例における主な取り扱い製品】 日用品・雑貨 物流倉庫では様々なロボットが活躍している。現場見学を通して、学生達から「ロボット導入前よりもピッカーの身体的・精神的負荷が増加しているのでは」といった声が上がったことをきっかけに活動を開始した。学生たちの考える理想の職場設計を目指し、作業負荷抑制によるワークエンゲージメント向上に挑戦した。
12:55 ↓ 13:15	発表 27 充填材の脱プラによる 環境負荷軽減の実現		発表 37 多角的アプローチによる DASの生産性改善 ~It's all about the basics~
	SBS東芝ロジスティクス(株) 物流改革推進部 包装・設備技術担当 主事 吉本 拓矢		山村ロジスティクス(株) 市川営業所 主任 ファム・トウ・トウイ 第15期物流現場改善士
	【改善事例における主な取り扱い製品】 中重量製品 弊社では環境問題の観点から脱プラ化を推進している。中重量製品を梱包する際にプラスチック含有充填材を使用しており、それらの使用量削減を目指した。定量的な評価により、プラスチック含有充填材から紙系緩衝材に切り替えが可能と判断し、包装容積79%減・包装コスト83%減、さらに脱プラ化を達成した。		【改善事例における主な取り扱い製品】 小売りチェーンストア向けの日配食品 小売りチェーンストアへの日配食品を供給する物流センターを運営している当社は、庫内作業全体の使用MHの5割を占めているDASの生産性改善に着手。DASのレイアウトと店舗配置の変更、仕分け順の統一に取り組み、1日あたり22MHの削減に成功。波及効果として、歩行動線の短縮により従業員の働きやすさも改善することができた。
13:15 ↓ 13:35	発表 28 船橋営業所SDに夢(あるべき姿) ~ロジテムグループ内No.1のドライバー集団になる		発表 38 フォークリフト用クラウド式 ドライブレコーダー(IoT技術)活用による 安全品質強化改革
	日本ロジテム(株) 船橋営業所 船橋営業所 橋本 文治 森戸 健介		MDロジス(株) 自動車事業部 広畑グローバルロジスティクスセンター 白石 明日香
	【改善事例における主な取り扱い製品】 安全運転レベル向上のための取組 船橋営業所のSDチーム6名は、ドラレコ一体型デジタコの危険挙動発生件数ゼロ化とデジタコ運転得点の向上を目標に掲げ、独自に作成したヒヤリハットマップや動画を活用した対面式ミーティングの実施、KYTトレーニング、ルールの策定などに取り組んだ。その結果、運転レベルと安全意識の向上を実現した改善事例である。		【改善事例における主な取り扱い製品】 三菱電機モビリティ(株)姫路事業所(旧三菱電機(株)姫路製作所)が製造する自動車電装品(製品・部品) 新設する倉庫(21年8月):MDロジス 広畑グローバルロジスティクスセンターにおけるフォークリフト事故防止の一環として、全フォークリフトにクラウド式ドライブレコーダー(FORKERS)を装備。これをフル活用した安全品質改善活動の推進、並びにその効果が自社内で評価され、全国に展開されていた事例を紹介。
13:40 ↓ 13:45	コーディネーターコメント		
13:45 ↓ 14:05	セッションk・l 発表者との名刺交換会/休憩		

全日本物流改善事例大会2025プログラム

セッションごとにA・B会場どちらかを選んで聴講いただけます

(敬称略)

		A会場		B会場		
	セッション m	コーディネータ SBSロジコム(株) 日本通運(株)	三身 直人 吉村 治之	セッション n	コーディネータ サッポログループ物流(株) (公益)日本ロジスティクスシステム協会	浦田 浩明 飯田 正幸
14:05 ~ 14:25	発表 29	DXで物流・店舗双方の生産性改善 ~店頭検品・伝票電子化アプリKakehashi~		発表 39	ミスゼロへの挑戦! 「モノづくり品質」で倉庫の価値観を変える ~「神戸化」誕生から全社展開の軌跡~	
		資生堂ジャパン(株) SJロジスティクス部	吉田 霞 小笠原 歩美	NX・NPロジスティクス(株) 品質・神戸化推進部 神戸化推進課 経営企画部 ESG・広報企画課	土屋 のぞみ 真鍋 早紀	
		【改善事例における主な取り扱い製品】 化粧品 顧客店舗への配送において、店舗別の紙伝票を同梱しているが、その発行と仕分け作業は大きな負荷である。一方、紙伝票は店頭での検品に使用されるが、目視確認のため効率が悪い。伝票をスマホで閲覧可能なアプリを開発、提供する事で、店頭検品の作業効率を高めると共に、紙伝票の発行を低減させるDX改善を実施した。			【改善事例における主な取り扱い製品】 電機製品 弊社では物流現場に「モノづくり」の思想・現場管理手法を導入し「お客様が感動する現場」を目指して活動を行っている。5S3定・IE手法を用いて全社で生み出される改善は、年間約10000件。兵庫県神戸市の物流倉庫で始まったこの活動を「神戸化」と名付け、物流が提供できる「新たな価値づくり」に取り組んでいる。	
14:25 ~ 14:45	発表 30	ロボット×AI×現場力 -革新的シッパー自動組立システムによる 作業効率と働き方改革		発表 40	埼玉拠点における輸配送の見直し (早朝配達、幹線輸送、パレット輸送)による 運賃・納品リードタイム短縮	
		北海道ロジサービス(株) 大型投資計画プロジェクト 常務	池戸 伸也 第65期物流技術管理士	(株)山善 営業本部 物流企画部 担当課長 営業本部 物流企画部	齋藤 十 青木 弘子	
		【改善事例における主な取り扱い製品】 食品・雑貨・マテハン類 冷凍倉庫新設に伴い保冷シッパー組立て作業負荷が増大、作業者の負担軽減が急務に。ロボットメーカーと協働し、多関節ロボットと画像認識技術で自動化システムを開発。試行錯誤の末、組立て精度・速度を向上させ、目標の680箱/時を達成。3人分の省人化と作業負荷1/4を実現。配送費・ドライアイス削減効果も試算。			【改善事例における主な取り扱い製品】 切削工具、作業工具 2024年問題や、路線各社・運送会社の動向に対して、地域密着型小規模配送拠点の「デポ」を活用し、従来の運用から、翌日9時までに得意先に納品する「早朝配達」、茨城得意先向け「幹線輸送&パレット輸送」に変更し、コスト低減、リードタイム短縮によるサービスレベルの向上、短距離配送が可能な運用へ改善させた。	
14:50 ~ 14:55	コーディネータコメント					
14:55 ~ 15:25	コーヒブレイク/セッションm・n 発表者との名刺交換会					

(敬称略)

A会場		B会場	
	セッション 0 コーディネータ 大成建設(株) 三三五流通(株)	セッション P コーディネータ 本田技研工業(株) 福島大学	セッション P コーディネータ 新井 伸明 箕 宗徳
	発表 31 サステナブルな物流改革による 効率化と運用体制の構築	発表 41 全国倉庫のパフォーマンス向上に向けた 実測と理論の最適化アプローチ	
15:25 ↓ 15:45	サッポログループ物流(株) 首都圏支社 課長代理 首都圏支社 主任 宮坂 泰一郎 渡邊 奈都美	花王(株) SCM部門ロジスティクスセンター オペレーション革新部 花王ロジスティクス(株) 岩槻第2ロジスティクスセンター 庫内マネージャー 泉 紀子 小寺 二七夫	
	【改善事例における主な取り扱い製品】 輸入ワイン・洋酒、和酒およびRTD製品 当社の京葉物流センターは2024年問題に直面し、拠点の分散により 運営効率・輸送効率が低下、また庫内動線の複雑化で作業効率が悪化 していた。そこで、拠点の集約化を経て業務プロセスを見直し、ボトル ネック工程の能力向上および動線のムダを排除した。作業負担軽減の ため、多様な従業員が働きやすい環境作りを進めた。	【改善事例における主な取り扱い製品】 日用品及び雑貨等 これまでの倉庫計画は、保管量が増加すると外部倉庫を借増していた。 また、荷役作業員不足やトラック待機時間といった作業性にも解決すべき 課題があった。そこで、①理論的な保管能力の算出 ②理論値と現状 ギャップの分析 ③ムリ、ムダ、ムラを排除した倉庫レイアウトの見直し を行い、保管効率と作業効率の向上を両立した。	
	発表 32 交換式バッテリー (MPP:Mobile Power Pack) ツーイングカーを活用した搬送効率向上	発表 42 受注業務で物流2024年問題に貢献!	
15:45 ↓ 16:05	本田技研工業(株) 熊本製作所 パワートレイン工場 パワートレイン管理課 課長 星加 弘樹	(株)ロッテ SCM本部 受注センター 受注管理二課 課長 神田 教二	
	【改善事例における主な取り扱い製品】 交換式バッテリー(MPP:Mobile Power Pack)ツーイングカー 従来の鉛バッテリーを用いたツーイングカーは充電に約8時間と時間がか かり、2交替職場の場合、1日の生産に対し複数台のツーイングカーが 必要となり、費用もスペースも多くかかっていた。ツーイングカーをMPP 式にすることで 充電待機時間を削減、交換即稼働が可能になり、最少 台数で供給が可能となった。	【改善事例における主な取り扱い製品】 菓子・アイスクリーム 受注を早く締める(注文を確定させる)=[出荷を指図する時間を早める] は、物流パートナー企業様の一番のご要望である。昨今、D+2(リード タイム延長)に動きだしているが実現には時間がかかる。自分達で出来る 事・スピードを持って出来る事を、多くの関係者に物流2024年問題を 啓蒙しながら行い、ご要望にお応えした。	
16:10 ↓ 16:15	コーディネータコメント		
16:20 ↓ 16:30	閉会 あいさつ 全日本物流改善事例大会 実行委員会 副委員 東京海洋大学 学術研究院 流通情報工学部門 教授 黒川 久幸		
16:30 ↓ 16:50	セッションo・p 発表者との名刺交換会		
17:00	閉場		

参加要項

参加申込規定

■ 参加料

参加料金(消費税込み)		両日参加	1日参加
主催団体／後援団体会員	1名	37,400円	22,000円
会員外	1名	61,600円	33,000円

※上記料金には、テキスト代が含まれています。昼食代は含まれておりません。
※都合によりプログラムが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

有資格者優待(フォローアッププログラム)

当協会では、有資格者のためのフォローアッププログラムを実施しております。本プログラムは、当協会主催の講座で習得した知識をより深く実践の場で活用できる能力を身につけたいという、有資格者からの強い希望を受けて、当協会認定の資格*をお持ちの方に、当協会主催のプログラムを、優待料金にてご提供するものです。実践力の強化、最新の情報収集の場として、ぜひご活用ください。

■ フォローアッププログラム参加料(消費税込み)

両日参加：27,500円 1日参加：17,600円

(注)フォローアッププログラムにお申し込み後、参加者が資格をお持ちでない方に変更になった場合は、参加料の差額を請求させていただきます。あらかじめご了承ください。

有資格者優待の該当保有資格をご確認ください。
※ロジスティクス経営士、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流技術管理士、物流現場改善士

■ 参加定員(会場参加)

各日150名(定員になり次第、締め切らせていただきます)

■ 参加申込方法

- 下記のWebサイトからお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は参加者の方へ開催日の約1週間前までにお送りいたします。
- お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。

【開催日直前のお申し込みについて】

- 定員に余裕があるときのみ当日受付も行いますので、事前に事務局に確認のうえ直接会場受付へお越しください。
- 開催間近のお申し込みについては、参加証等は当日会場でお渡しいたします。

■ 参加料支払い方法

- WEB請求書で請求いたします。
※請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振込みください。
※お支払いは原則として開催前日までをお願い申し上げます。(開催後になる場合は、連絡欄に支払予定日を明記してください。)

【お願い】

- 参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。なお、代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。

【キャンセル規定】

開催7日前～前々日(開催日初日を含まず起算)

参加料(消費税を除く)の30%

開催前日および当日

参加料(原則として消費税を除く)の全額

■ ご注意

テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はいたしておりません。スライド内容を撮影する目的での写真撮影および講演内容の録音はご遠慮ください。

事務局

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

東京都港区海岸1-15-1 スズエビエディウム3階

e-mail : kaizenjirei@logistics.or.jp

個人情報のお取り扱いについて

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>) をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本大会に関する確認・連絡・参加者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

会場のご案内

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ2階

TEL.03-6206-4855



交通のご案内

- JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅 聖橋口から徒歩1分
- 東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅 B2出口【直結】
- 東京メトロ丸の内線「御茶ノ水」駅 出口1から徒歩4分
- 都営地下鉄新宿線「小川町」駅 B3出口から徒歩6分

※お客様用の駐車場はご用意がございません。ご来場の際は、公共交通機関をご利用くださいませ。

参加申込はJILS Webサイトから!

<https://www1.logistics.or.jp/network/zennihon.html>